

三十三間堂の調査成果から

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 中谷 正和

1. はじめに

三十三間堂は、後白河上皇の勅願をうけて創建された蓮華王院（れんげおういん）の本堂であり、平安時代末期から鎌倉時代にかけての院政期の文化を伝える京都市内で唯一の建造物として、現在多くの人々に親しまれています。今回の講座では、平成 28 年に実施した三十三間堂の発掘調査の成果について紹介します。

2. 三十三間堂の歴史

長寛 2 年（1164）後白河上皇の勅願、平清盛の造進により完成。落慶法要が行われる。
建長元年（1249）建長の大火。三十三間堂・五重塔・不動堂など焼亡。
建長 3 年（1251）後嵯峨上皇による再建（～文永 3 年（1266））。
慶安 2 年（1649）徳川家光による修造（～慶安 4 年（1651））。
貞享 3 年（1686）和佐範遠（大八郎による）大矢数の最高記録更新（8133 本）。

3. 発掘調査の成果

平成 28 年の発掘調査では、本堂の北（1 区）と西（2 区）の 2 か所に調査区を設定しました。調査の結果、江戸時代と鎌倉時代、平安時代後期の遺構・遺物を確認しました。

(1) 江戸時代

柵（SA270・271）や溝（SD240・241）などの区画施設を確認しました。区画施設の時期は、出土遺物から 17 世紀後半前後と考えられます。18 世紀ころに描かれた絵画資料には、本堂周辺に竹矢来を描いたものがあります。今回の調査によって、実際に絵画に描かれたような施設が敷設されていたことがわかりました。

(2) 鎌倉時代（再建期）

整地層と、不要となった瓦を整理・廃棄した土坑を確認しました。整地層からは 13 世紀半ばの遺物が出土したことから、三十三間堂再建時（1251 年）のものと考えられます。

(3) 平安時代後期（創建期）

1 区：地業（じぎょう）の一部を確認しました。ここで確認した地業は、南北方向に長い土壇をいくつか平行に作り、その間を別の土砂で埋めて基礎を構築していました。特に、三十三間堂を支える基礎の骨格となる土壇では、土質が異なる土を交互に突き固め、一定の高さごと縁の部分に拳大の石を並べるといった手の込んだ工法を採用していました。

2 区：東側から西側に向かって、土を埋め立てて造成していました。しかし、ここでの造成では北側で確認したような土壇は認められず、土を薄く突き固めるといった、手間のかかる作業は施されていませんでした。

4. 三十三間堂の造営と地盤改良工事（地業）について

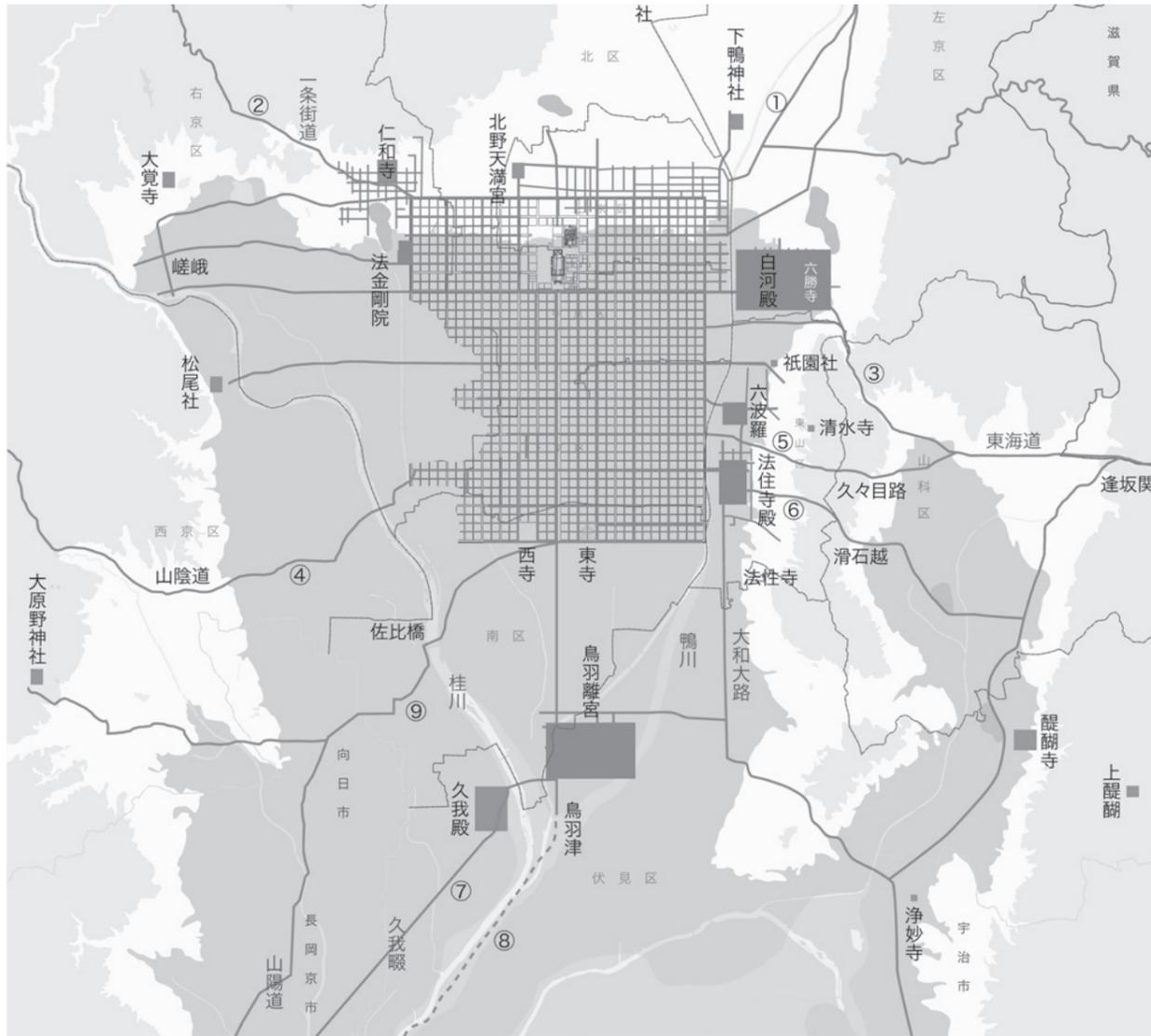
地業（じぎょう）とは、大きな建造物の重量によって地盤が沈まないように行う基礎工事部分の呼称です。日本列島に本格的な仏教寺院が造営される飛鳥時代頃に大陸から導入されました。こうした地盤改良工事は、法勝寺や鳥羽離宮、法住寺殿域内の最勝光院などでも確認できます。

5. おわりに

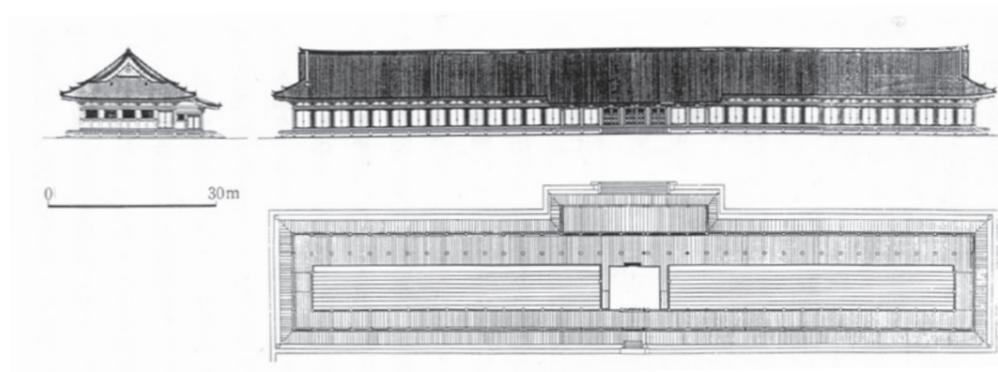
三十三間堂の調査では、建物の地下に施された地盤改良工事の一端を明らかにすることができました。これと類似した技術は院政期の大規模建築群の地下でも確認できます。残念ながら、当時の技術を詳しく伝える史資料は、多くありません。今回のような発掘調査の積み重ねによって、歴史に埋もれた人々の知恵や技術を明らかにしていきたいと考えています。

参考文献

青木 敬 『土木技術の古代史』歴史文化ライブラリー 453 吉川弘文館 2017
上島 亨 『日本中世社会の形成と王権』名古屋大学出版会 2010
上村和直 「法住寺殿の成立と展開」『研究紀要』第 9 号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004
上村和直 「法住寺殿の考古学的検討」『平安京・京都研究叢書 1 院政期の内裏・大内裏と院御所』文理閣 2006
会下和宏 「京都・鳥羽離宮跡」『木簡研究』第 15 号 木簡学会 1993
菅原信海・みうらじゅん 『古都巡礼京都 18 妙法院・三十三間堂』淡交社 2008
杉山信三・梶川敏夫 「法勝寺金堂跡調査概要」『法勝寺跡』京都市埋蔵文化財年次報告 1974- II 京都市文化観光局文化財保護課 1975
杉山信三 「法住寺殿とその御堂」『院家建築の研究』吉川弘文館 1981
中谷正和・松本啓子 『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-3 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016
前田義明・会下和宏 「17 鳥羽離宮跡 138 次調査」『平成 4 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995
三崎義泉 『概説 三十三間堂』三十三間堂本坊妙法院門跡 1972
村田治郎・杉山信三・後藤柴三郎 「蓮華王院の建築」『三十三間堂』三十三間堂奉賛会 1961



1. 院政期の遺跡



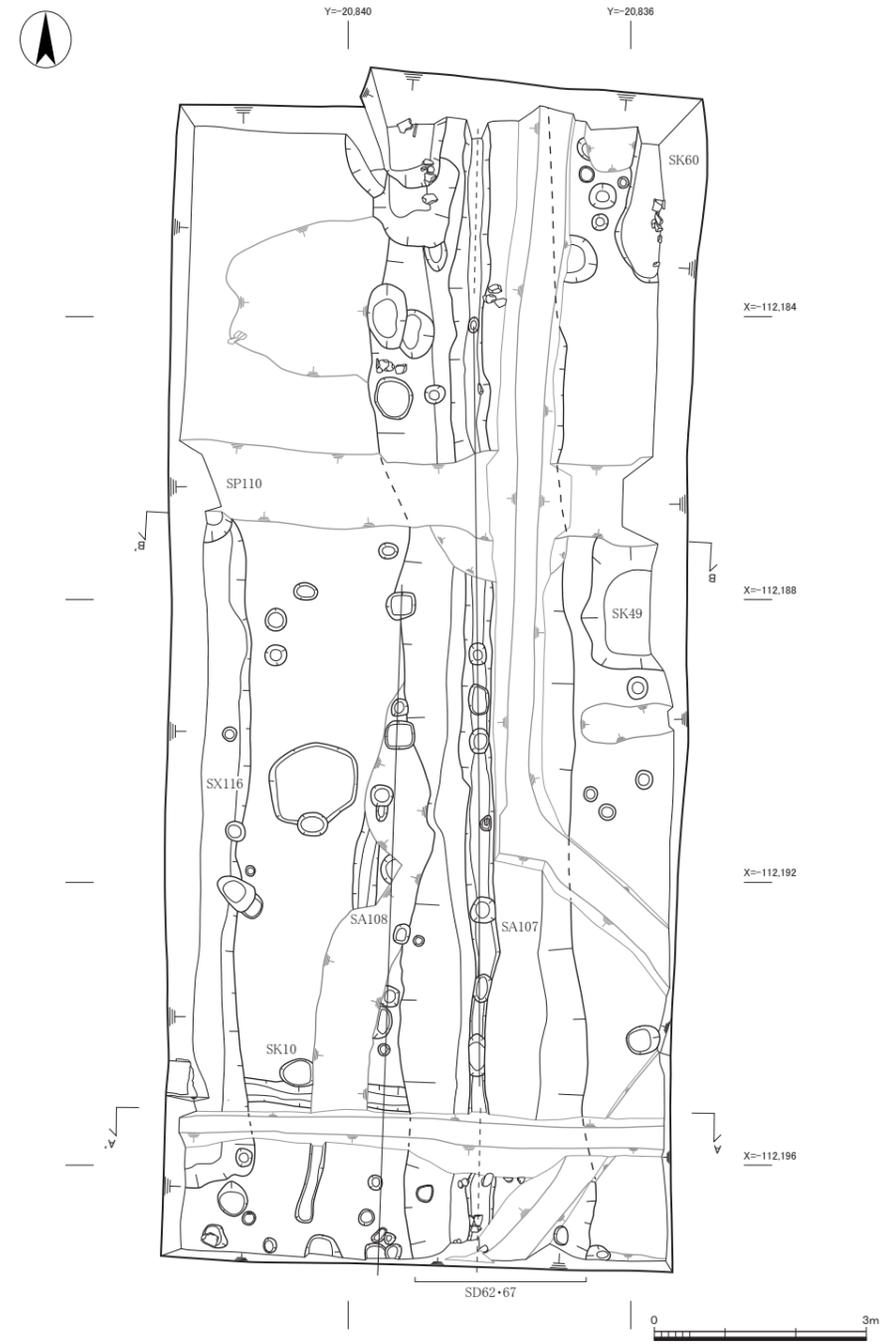
2. 三十三間堂実測図



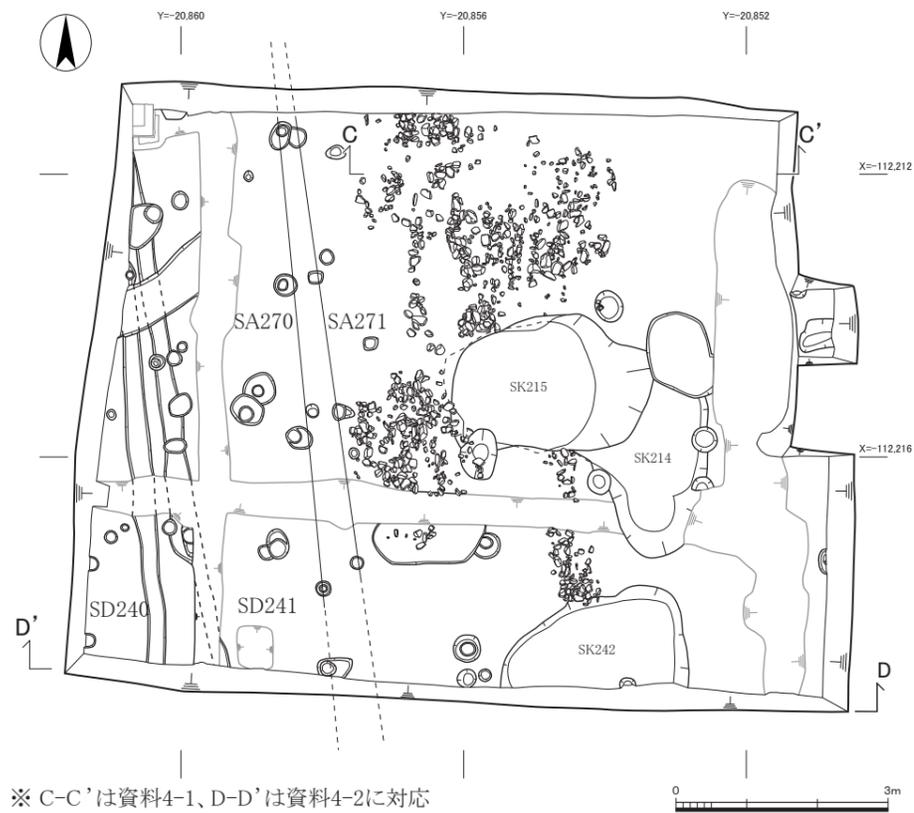
3. 法住寺殿とその周辺 (1 : 1,000)



1. 調査区位置図 (1 : 2,500)

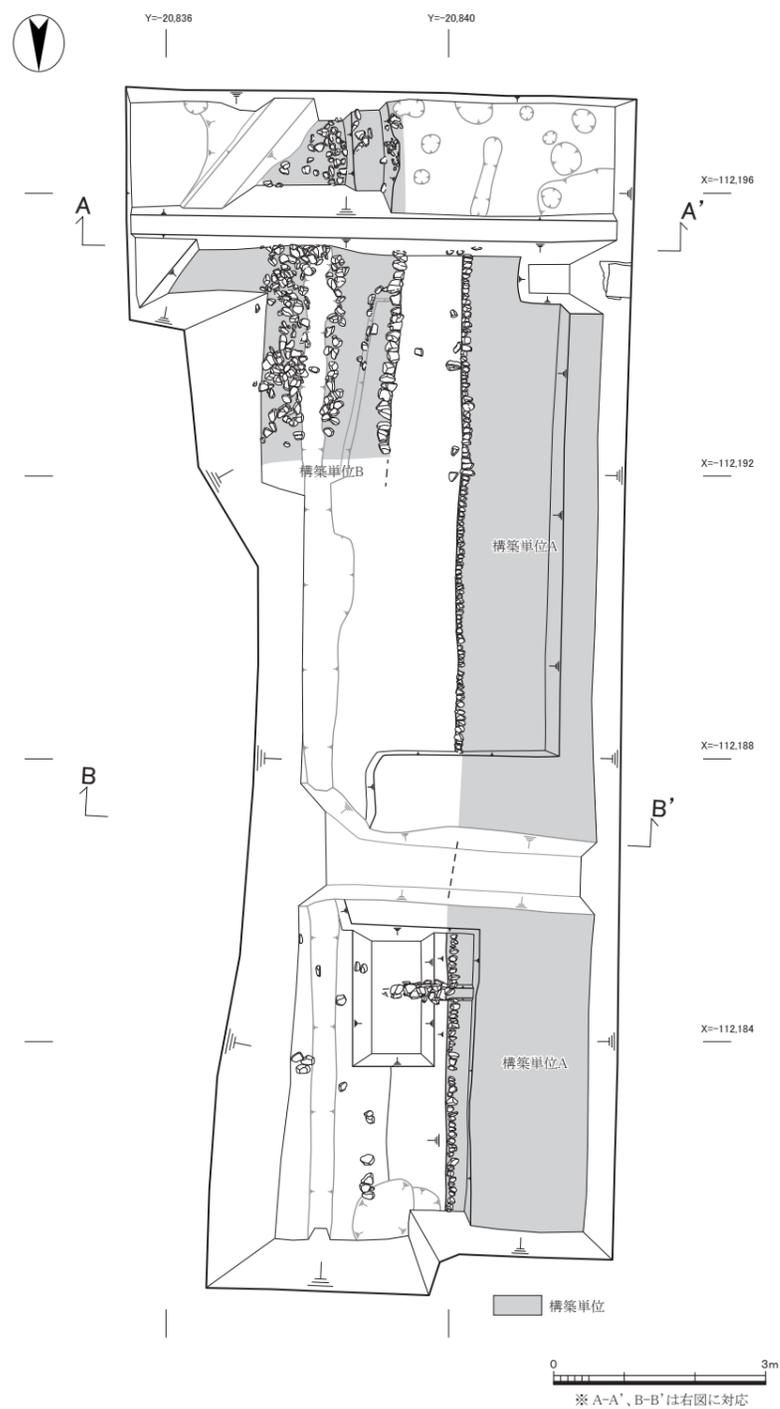


3. 1区平面図 (1 : 100)

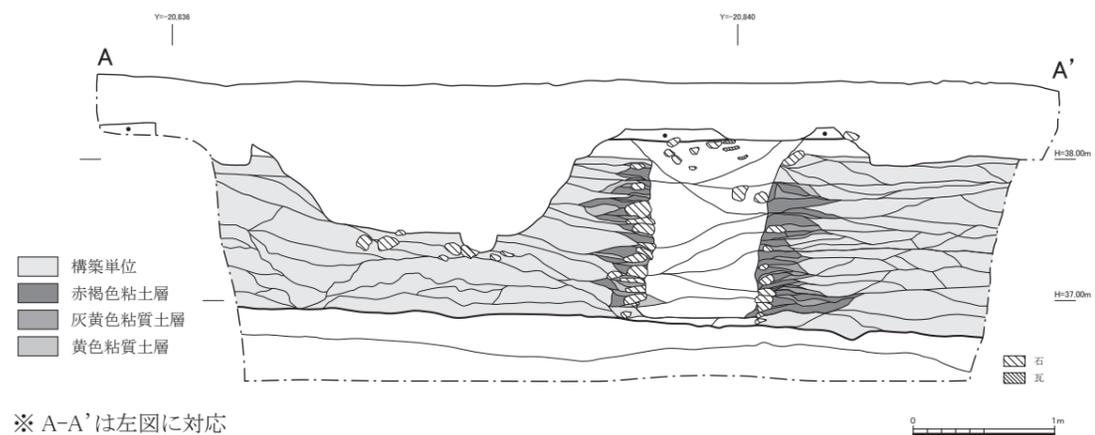


※ C-C'は資料4-1、D-D'は資料4-2に対応

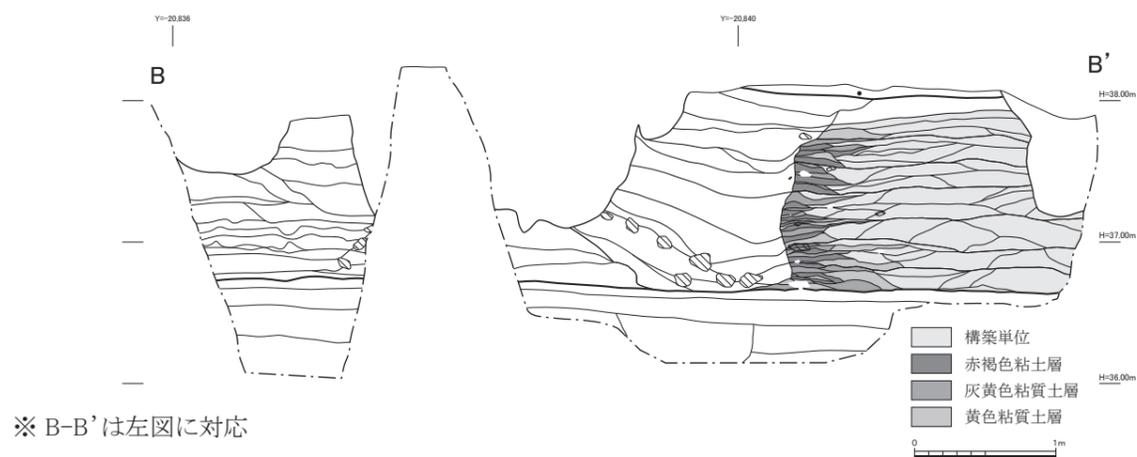
2. 2区平面図 (1 : 100)



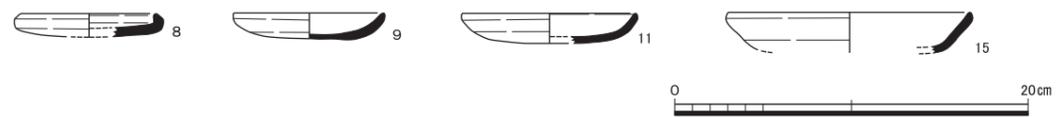
1. 1区地業構築単位平面図 (1:100)



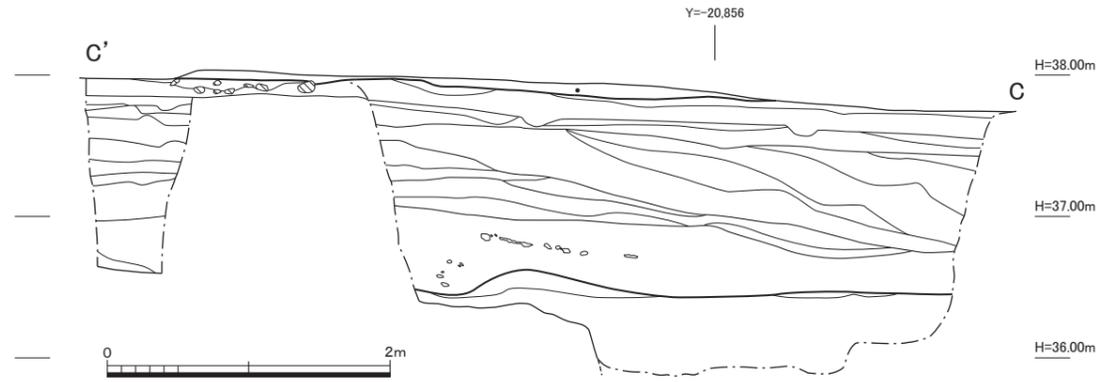
2. 1区地業・造成土断面図1 (A-A'ライン) (1:50)



3. 1区地業・造成土断面図2 (B-B'ライン) (1:50)

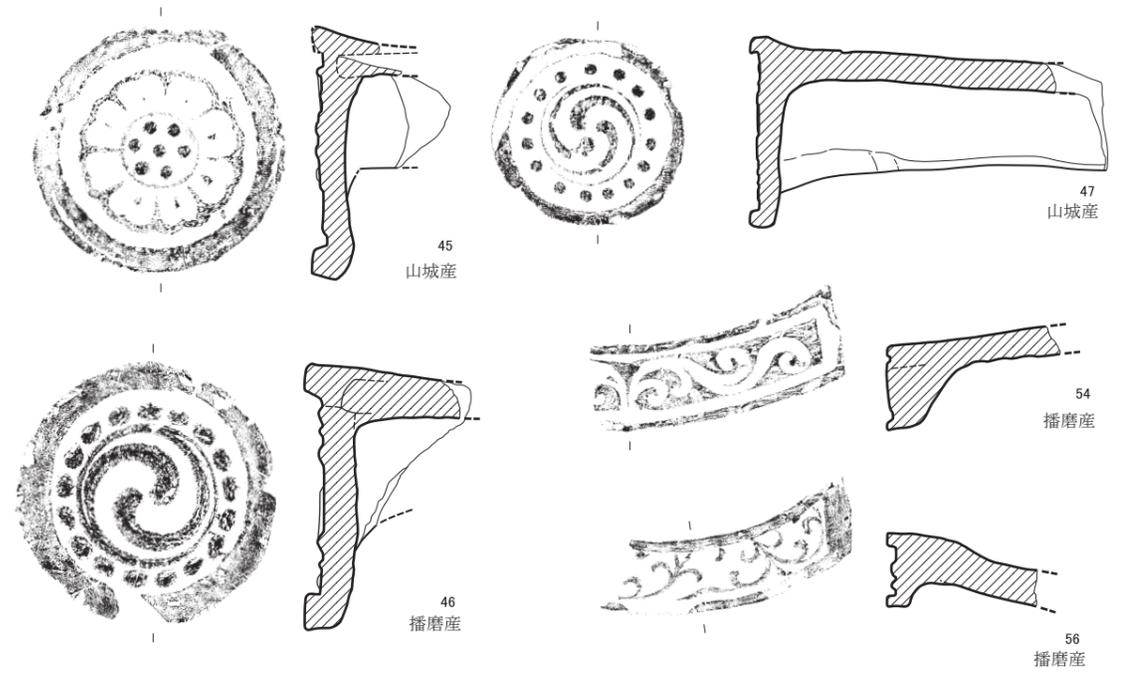


4. 三十三間堂再建期整地層出土土器

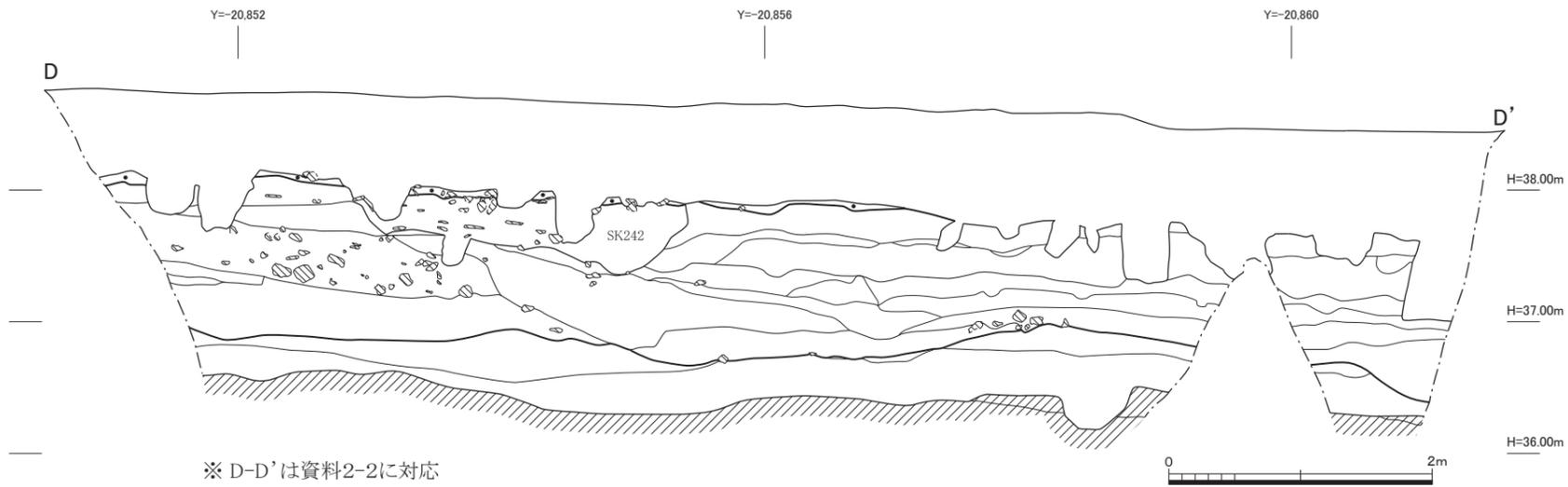


※ C-C'は資料2-2に対応

1. 2区造成土断面図3 (C-C'ライン) (1:50)

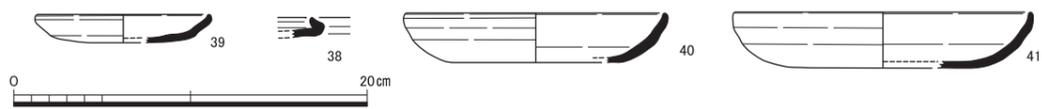


4. 三十三間堂出土軒瓦拓影実測図

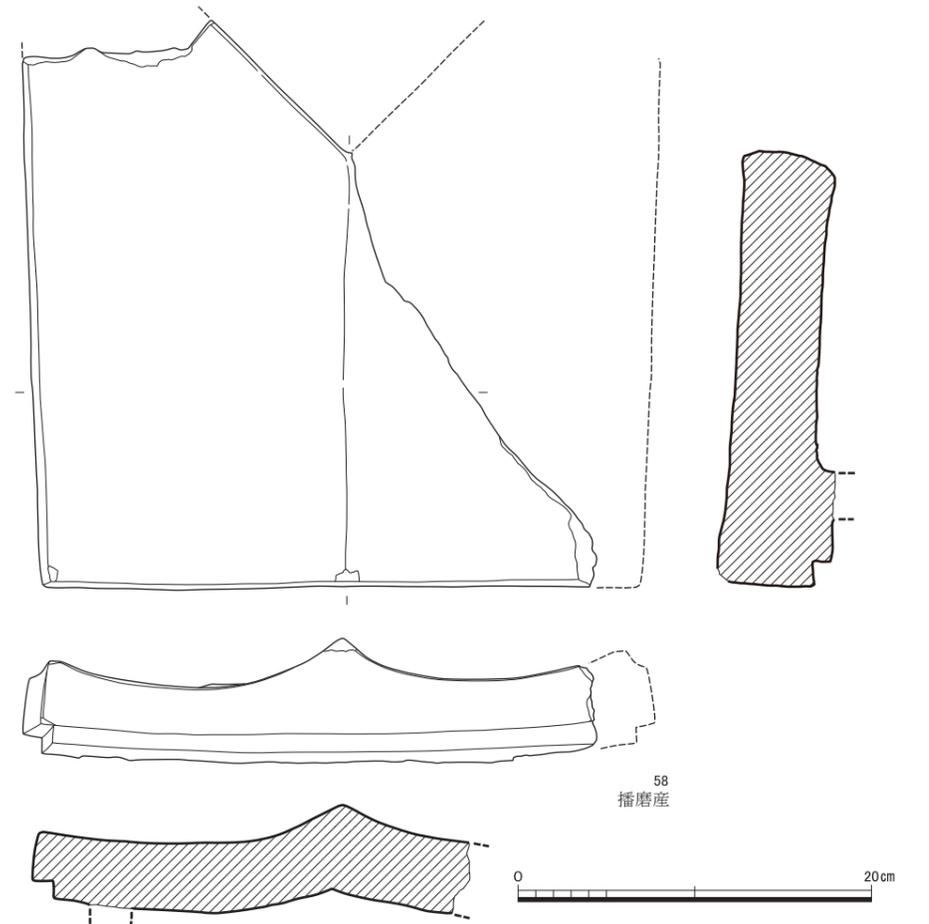


※ D-D'は資料2-2に対応

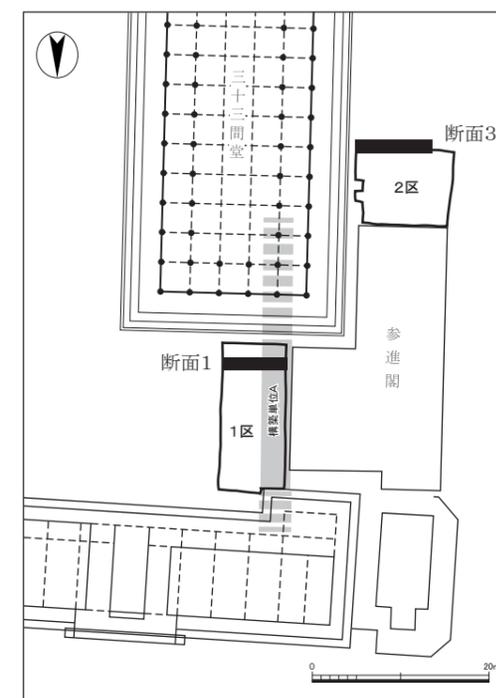
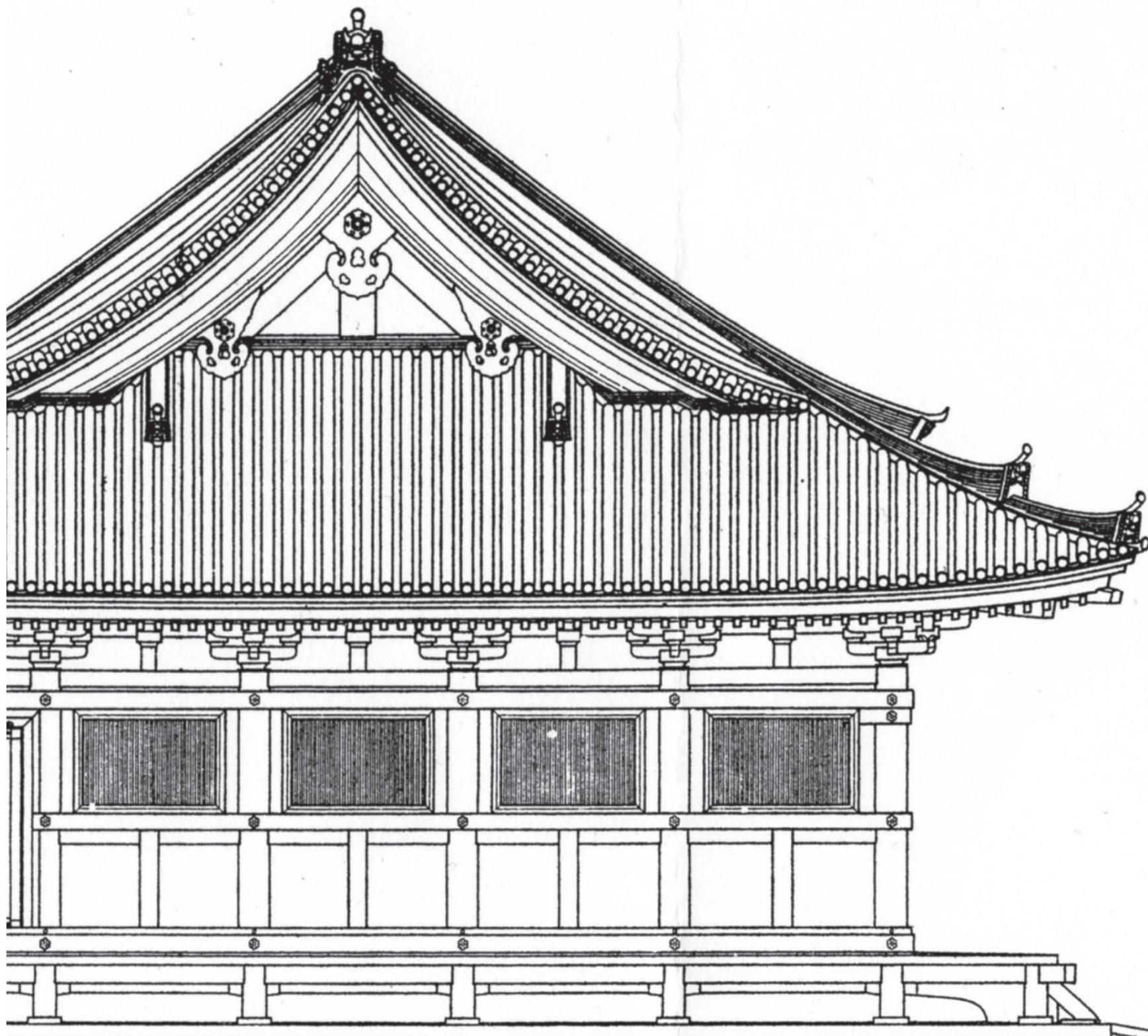
2. 2区造成土断面図4 (D-D'ライン) (1:50)



3. 三十三間堂創建期造成土出土土器



5. 三十三間堂出土隅木先蓋瓦実測図

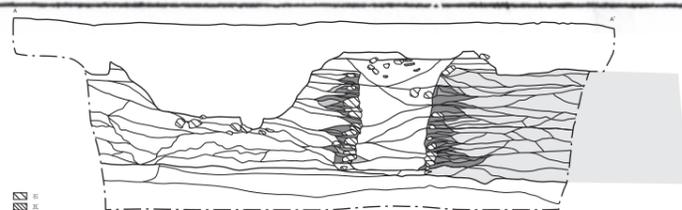


- 構築単位A
- 赤褐色粘土層
- 灰黄色粘質土層
- 黄色粘質土層

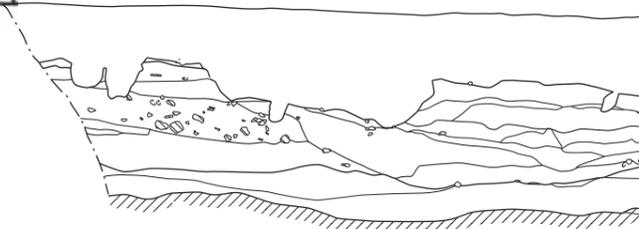


H=38.00m

H=37.00m



断面1

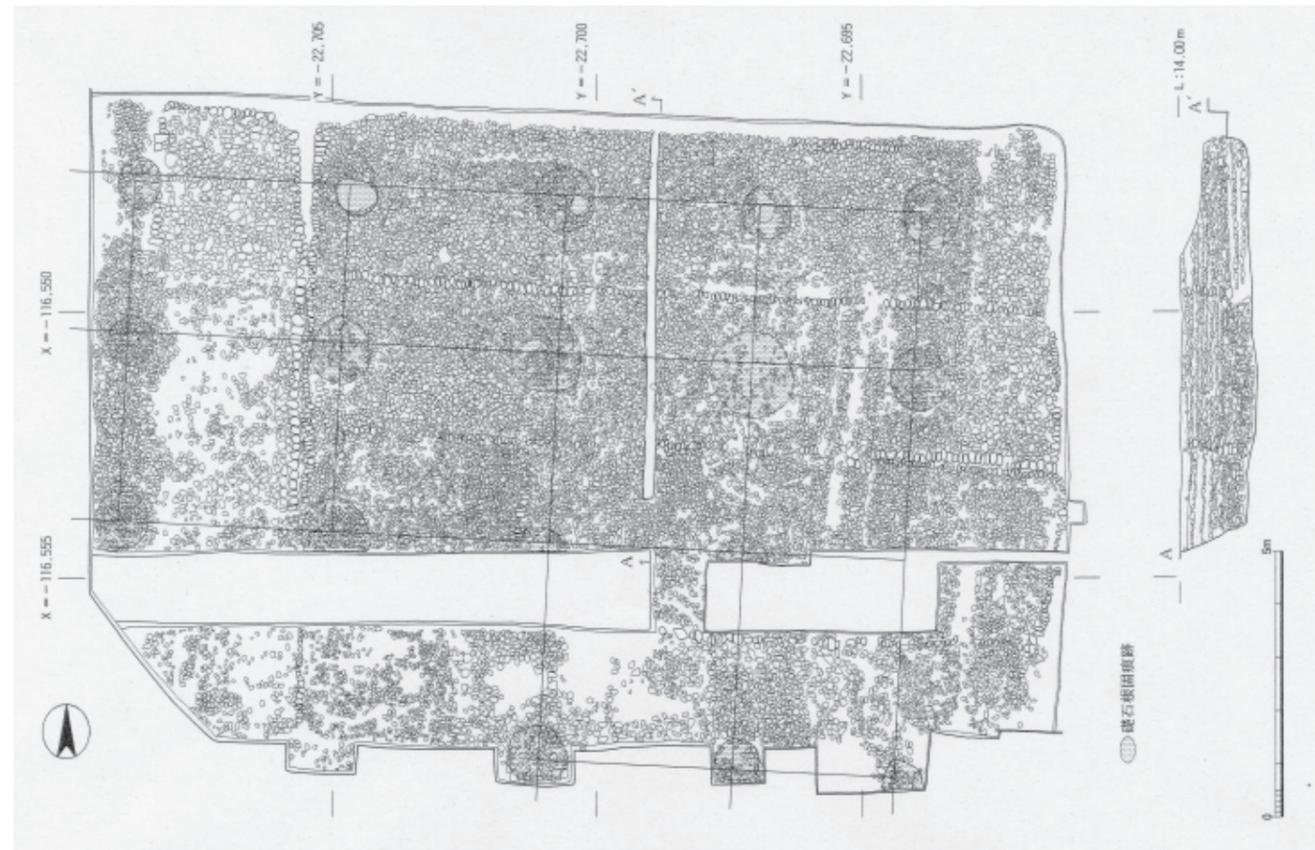


断面3

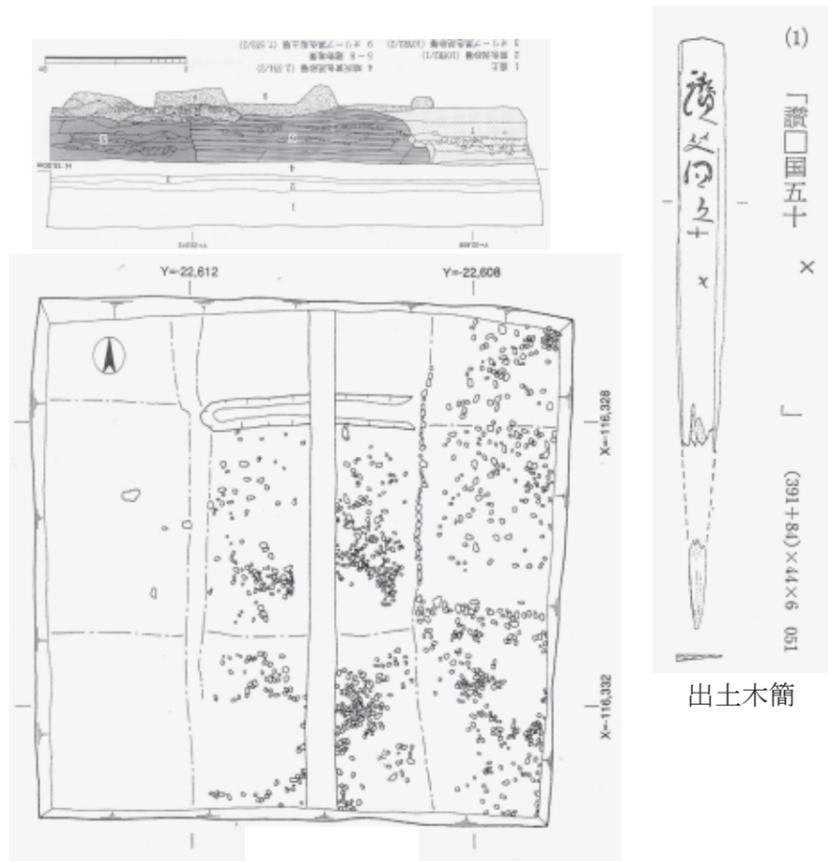
1. 三十三間堂の地下構造 (1:80)



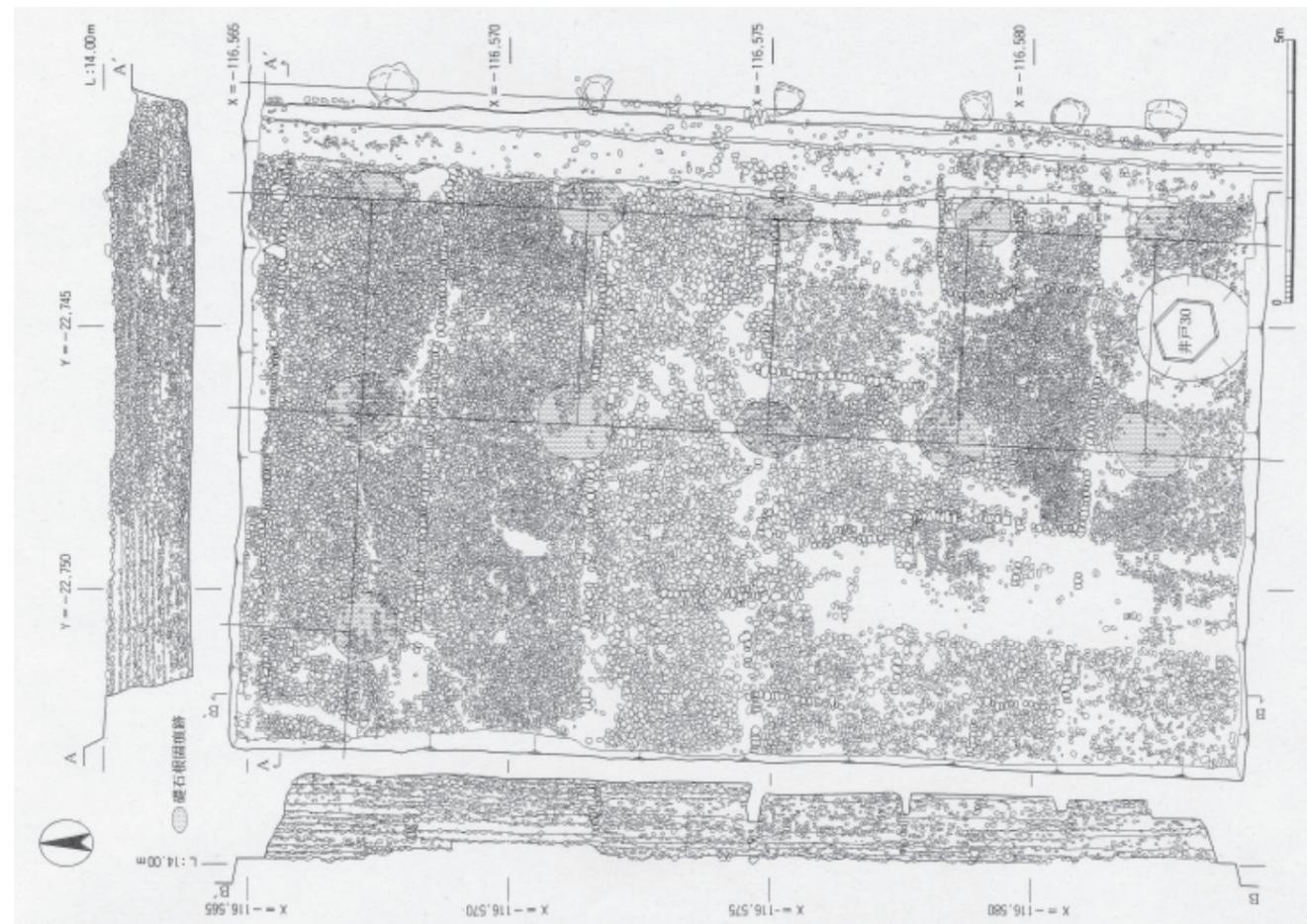
1. 鳥羽離宮復元図



3. 鳥羽離宮金剛心院积迦堂地業実測図



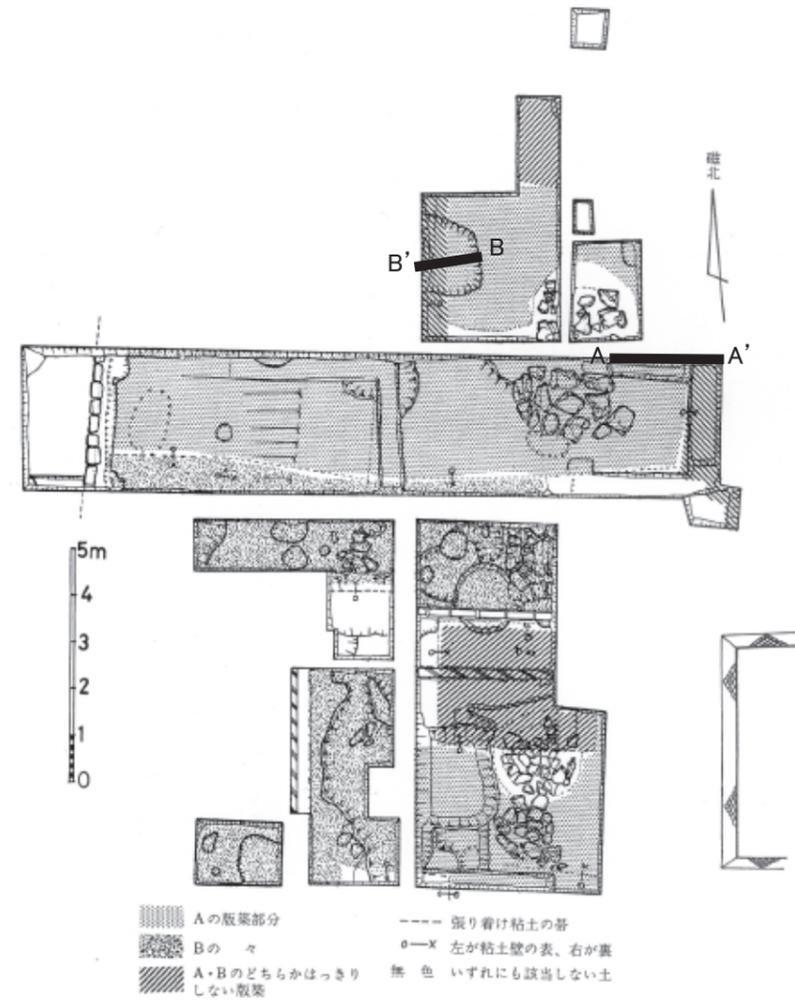
2. 鳥羽離宮田中殿地業実測図



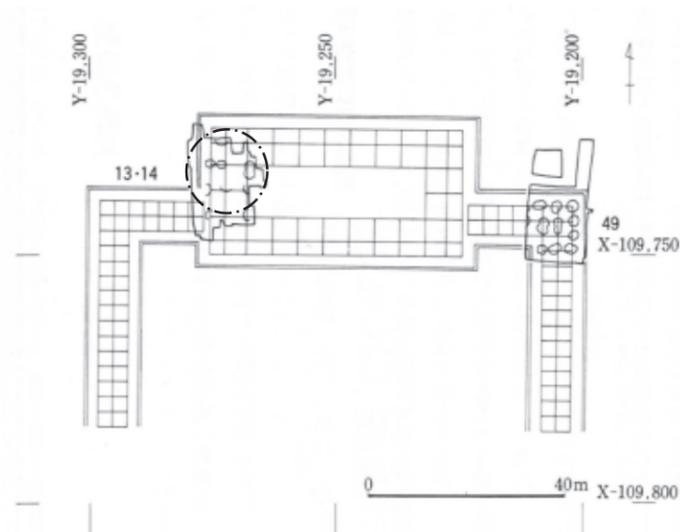
4. 鳥羽離宮金剛心院阿弥陀堂地業実測図



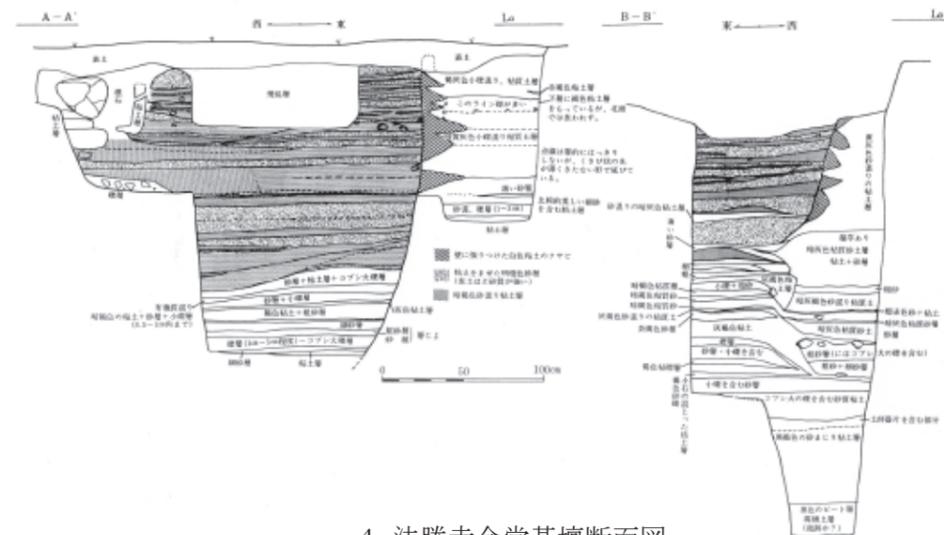
1. 白河殿復元図



3. 法勝寺金堂基壇平面図



2. 法勝寺復元図



4. 法勝寺金堂基壇断面図